

昭和女子大 内田 武
○小ノ沢治子

1. 従来ナイロンの染色には、酸性染料、分散染料が一般に使用されてきたが、色相、染色堅ろう度の点から見ると必ずしも満足すべきものではない。しかし反応染料、特にナイロン用の反応染料が出現し、その染色堅ろう度は、かなり高度なものであるとの報告がある。そこでナイロン布に対する酸性染料、分散染料、反応染料の染色性と共に染色堅ろう度の点から検討してみた。

2. ナイロン布を酸性染料、分散染料 (Dispersol)、反応染料 (Procion および Procinyl) それぞれ 3 種ずつを用い学振型標準染色容器を用いて染色した。なお酸性染料、Procion 染料による試染布はタンニン酸にて媒染し、これらの染色試布を用いて、洗たく、日光、有機溶剤、昇華度、ホットプレッシング試験を J I S 規格にもとずいて行なった。

3. 上記 4 種の染料を堅ろう度の点から比較すると、洗たく、日光、昇華度において Procinyl 染料が最もすぐれ、また有機溶剤、昇華度、ホットプレッシング試験には分散染料の堅ろう度が特に低いのが目立った。Procinyl 染料の染色堅ろう度がいずれの点からも高いのは、ナイロンの $-NH_2$ 基または $-NHCO$ 基と染料の反応基が化学的に反応しているためと思われる。また染色法も容易で、しかも分散染料のように均染性が得られ、その色相は極めて鮮明であることが分った。